

「これまで」からの脱却 そして、「これから」へ

- 平成 19 年度施政方針から抜粋 -



行財政改革

新生三豊市が発足して1年が経過しました。

私は、平成18年度は、三豊市の大いなる飛躍のための基礎づくりの年と決め、庁内に行政改革推進本部を設置し、各部門、部署ごとに現状の把握と徹底した事務事業の見直しに取り組み、さらに、諮問機関として行政改革推進委員会を設置して、行政改革大綱案の作成に取り組んできました。

この改革は、「節約」「改善」という発想を超え、「これまで」という意識を断ち切り、三豊市の「これから」をどうするのか、市民と行政の新たな関係、つまり新しい三豊市を創造するシナリオとして提案したものです。

このようにしてまとめた改革プランは、「三豊市行政改革大綱」と「中期財政計画」、「総人件費削減に関する方針」、「補助金等の整理合理化・優遇措置の見直しに関する指針」であり、それぞれ数値目標や指標を掲げ、達成の状態を確認しながら取り組むこととしています。

現在、三豊市は244施設ものの建築物を有する公共施設を保有しています。今後進めていく行政改革の指針は、この既存施設を有効活用して、子や孫の世代に無駄な借金はしないという方向づけをしました。

その象徴としての市役所建設問題については、合併協議会における協定項目を議会の同意を得て、去る12月議会で白紙撤回させていただきました。

旧松下寿電子跡地有効利用に関しても、株式会社イズミとの土地売買交渉の方向



大型ショッピングセンターが建設される予定の旧松下寿電子跡地

が決定されました。市にとっても、雇用や税収面のみならず、市内の製造産品や農水産物がこの施設を窓口として、新しい販路の拡大につながるよう努めなければならぬと考えます。

第3セクターの運営についても、これまで利用料金制度をとっていた施設については、可能なものは指定管理者による管理運営体制へと移行しました。

先手の福祉

コミュニティバス事業については、19年度から、市内全域で順次運行を開始します。これは、単に市民の足ということだけではなく、「先手の福祉」と考えています。コミュニティバスを利用して、市民の皆さんが閉じこもることなく、どこへも外に出て、文化活動や健康づくり活動などに取り組むことによって、より永く心や身体の健康が維持できることを目指しています。

さらに、付加効果として、市内の各種施設利用が活発化し、市民交流も広域に行われ、市の一体化が強化されることも期待できます。

なお、運行路線については、当初2、3年は試行期間とし、その利用率によって柔軟に変更、見直しをしていきたいと考えています。



コミュニティバスは高齢者の生きがいづくり、まちの活性化にもつながります

目指すべき三豊市の姿

合併2年目となる平成19年度については、いよいよ「三豊市総合計画」の策定という新しい三豊市づくりの方向を決める事業に取り組みたいと考えています。

私は、地域の将来計画については、明るい、楽しい、豊かなというような観念的な概念ではなく、地域の特性や伝統的に持つ「地力」に基づいた方向性を見出しながら、積極的な計画づくりを行うべきであると考えています。

三豊市には、企業側から見て好立地の土地がまだまだ多くあります。土地所有者や関係住民の皆さんの協力を得て、さらに企業誘致を進め、雇用の場と安定し

た税収の確保を図りたいと考えています。

地域資源の活用

昨年、詫間電波高専が第18回全国高専ロボットコンテストにおいて全国制覇を成し遂げました。3回目の全国制覇です。

このように、三豊市には理科学の最先端の教育・研究機関があり、大きな地域資源でもあります。これら教育・研究機関と企業、三豊市が協力し、産、学、官の連携システムの構築に取り組みたいと考えています。

また、理科学に興味のある子どもたちを育てることは地域の基盤を強化し、活力の増加にもつながります。よって、三豊市にある地域資源の活用のため、本年「みとよ未来技術基金」を創設し、ロボットをはじめ理科学分野における息の長い人づくり事業に着手したいと考えています。

新生三豊市のキーワード

「ものづくり」は、新生三豊市のキーワードの一つです。

農業において、三豊市には、品質の高い多種多様な果物が生産できる大きな「地力」があります。みかん、ぶどう、桃、柿など、多種類の果物の生産力と販売力強化向上にむけて、「フルーツ王国」とよ「プロジェクトチーム（仮称）」をつくります。本年度は専従の職員を配置して研究・検討を行います。



三豊を代表する果物の一つ「曾保みかん」

私たちが豊かな人生を送るうえで、心と身体の健康と充実は不可欠です。「スポーツと文化」も新生三豊市のキーワードとを考えます。

そして、私はこの分野こそ地域内分権によって、活性化されると考えています。昨年からは始めた市長杯は、すでに地域内分権が進められています。各種のスポーツ大会が市民の手で行われ、すでに合計20大会、参加総数約2300人というすばらしい市民活動となっております。まだまだ拡大を続けています。

さらに、市民活動の活発化を願って本年より、三豊市日本一名誉賞を設置し、市民みんなで誇りにしていきたいと思えます。

地域内分権とヤングシルバー

地方自治の仕組みは大きく変化し、国から地方へ、地方から市民へ、分権は流れています。これからは、市民ができる

ことは市民に、民間ができることは民間にやっていただき、地域内における分権システムを構築することが必要です。受け皿はあります。

高齢化社会の進行の中で、知恵も経験も元気もある65歳〜75歳の市民が増加しています。私は、この層を高齢者とは言わず、「ヤングシルバー」と称したいと思っています。そして、この三豊市ヤングシルバーが本市発展の最大の力ぎを握ると考えます。私は三豊市ヤングシルバーの皆さんは、やる気満々と見ています。今後は、ヤングシルバーが参加・活動しやすいシステムづくりに取り組みます。



2月に発足した三豊市安全安心パトロール隊でもヤングシルバーが大活躍しています

平成19年度は、「ものづくり」「フルーツ」「スポーツ」「先手の福祉」「地域内分権」「ヤングシルバー」等、今までになかった着眼点をもって、新しい時代づくりに臨んでまいります。

平成19年度に 取り組む 主要事業

心身ともに健康で

安心して暮らせるまちづくり

乳幼児および高齢者を中心に、医療・福祉分野と連携した各種検診サービス
の提供、相談、指導体制の充実強化を
図るほか、公立病院や診療所の機能強
化を進め、民間医療機関との役割分担
や連携を図り、地域医療の充実に努め
ます。

高齢者福祉については、各種の支援事
業や補助事業を実施するとともに、コ
ミュニティバス開通を契機に、高齢者
が閉じこもらず社会参加、社会貢献で
きるよう努めます。

子育て支援については、多様化する二
ーズに対応できるよう、組織を再編し
強化します。

介護保険事業については、老人介護支援
センター運営事業や生きがい活動支援
通所事業などに取り組みます。

障害者福祉については、障害者福祉計
画に基づき、身体障害者、知的障害者
障害児の居宅生活支援および施設訓練
支援事業などに取り組みます。

水と緑を大切に

共生のまちづくり

三豊市環境基本計画を策定し、総合的
な環境行政の指針づくりに取り組みま

す。「ごみはすべて資源」であるという
意識をさらに浸透させ、「ごみの減量化
資源化をさらに進めます。

地域の環境整備は、地域内分権を進め、
道路や河川の清掃、公共施設の清掃活
動などについても、市民の自主的な参
加を促すべく取り組みます。

空中に放出される二酸化炭素を抑制す
るモデル事業として、総合省エネ連携
事業に取り組みます。
安全で快適な生活を支える

定住基盤充実のまちづくり

水道事業については、老朽配水管など
の更新事業を順次実施するほか、市内
の総合的な水需要への対応と水道料金
の一本化に向けた取り組みを行います。
生活排水対策については、「三豊市生活
排水処理構想」に基づき、合併処理浄
化槽の設置普及事業に取り組みます。

高度情報化関係事業については、引き
続き、市民への情報伝達手段について
三豊市の特性に合致したシステムを見
出すべく研究を行います。

消防・防災関係については、総合防災
計画に基づき、対応マニュアルへの修
練と、非常用備蓄資材などを確保しま
す。また、消防団の強化育成と消防・
防災施設の整備充実を図り、自主防災
組織の育成にも取り組みます。
活力ある産業を

創造するまちづくり

農林水産業の振興については、三豊市
名産のお茶も茶業組合や県普及センタ

ーと連携を図り、さらに「みとよブラ
ンド」の確立に努めます。

商工観光事業については、市外の人か
ら見た三豊市アンケート結果などを参
考にししながら、三豊市の良さを再確認
できる事業に取り組みます。

人と地域がふれあい

人と文化を育てるまちづくり

学校教育の充実については、老朽校舎
や屋内運動場の整備、体育館防水工事
およびエレベーター設置事業などに取
り組むほか、学校ネットワーク事業の
ソフト充実を図ります。

放課後児童クラブについては公設民営
体制を基本にして取り組み、預かり保
育は市内20か所で実施します。

不登校対策教育支援センターを整備し、
適応指導が必要な生徒への指導を行います。
人権教育の推進については、幼保や小
中学校と連携するとともに、市民の意
識高揚に取り組みます。

宗吉瓦窯跡の保存整備など、歴史文化
資源の保存にも努めます。

みんなで創る協働のまちづくり

住民自治・コミュニティ活動の推進事
業については、市民が行政に参画する
ための多様な機会を整備するほか、地
域内分権やボランティア活動などを促
し、市民が参加しやすい住民自治の普
及推進に努めます。

男女共同参画事業については、「三豊市
男女共同参画プラン」を策定し、意識
改革の普及推進に努めます。

「これから」を見つめて

合併当初の18年度は、ひたすら基礎固
めのために行政改革大綱と中期財政計画
づくりに集中してきました。新年度は、
その実践の第一歩であると共に、新生三
豊市のあるべき姿を求めて、夢のある
「三豊市総合計画」づくりに着手します。
市民生活も自治体を取り巻く環境も、
大きく変化しています。市民も行政も、
「いままで」から脱却できなければ「こ
れから」は訪れません。

今こそ、子や孫や次の世代のためにも
力を合わせ、一つになって進むべき時
であり、市民の皆さんが力を発揮すべ
き時です。

議会ならびに市民の皆さんのご理解と
ご協力をお願いします。

